

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：三ツ又沼ビオトープにおける多様な主体と連携した保全管理の紹介		
水系/河川名：荒川水系/荒川	河川分類：大河川	
河川の流域面 2940	整備計画流量：6500m ³ /s	セグメント：2-1
事業：環境整備	事業開始年度 平成13年度	
目標設定：なし	段階：A(フィードバック時)	
課題・目的(主な)：その他		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催、人材育成		

背景・課題、目標設定

<背景>

荒川の河口から48km地点にある三ツ又沼ビオトープ
 かつての荒川と入間川の合流点に残っている沼及びその周辺を、良好な湿地環境として整備した場所です。



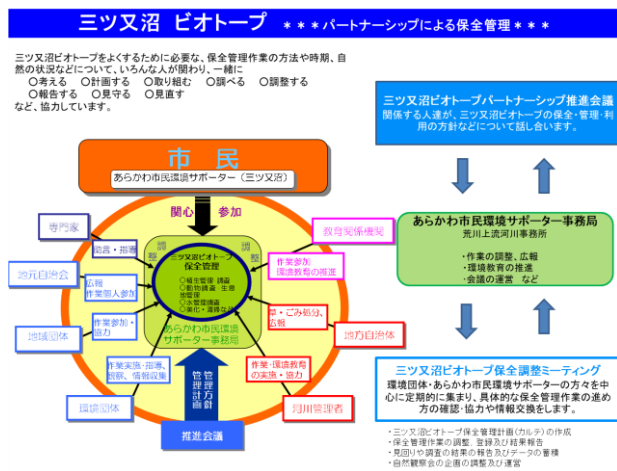
パートナーシップ型の維持管理を行っています。
 行政と市民(あらかわ市民環境サポーター)において定期的に野保全調整ミーティングを開催し、具体的な保全管理活動の進め方の確認、協力、情報交換を行っている。

<課題>

- サポーターの高齢化
- 必要な保全管理活動に対しての活動人員の不足

取り組み内容・対策例 (1/2)

- 平成13年度より、市民が「あらかわ市民環境サポーター」として保全管理活動を行う。
- 三ツ又沼保全調整ミーティングを2～3ヶ月に1回程度開催し、具体的な保全管理作業の進め方の確認、協力、情報交換を行っている。



取り組み内容・対策例(2/2)

●新サポーター制度の導入経緯

1. サポーター制度が出来て20年が経過している。
2. 近年は人数が増えることがなく、高齢化により減少してきている。

そのため、今までは、個人として参加していたが、
 ●個人に加え、団体、企業等が参加出来るようにする
 ●プロジェクトチームを設立
 活動の目的・内容、役割分担、体制の明確化
 自分の参加したいプロジェクトチームに参加

荒川の生きもの博士を育てるプロジェクトチーム

<ミッション>

将来の担い手となる子どもたちに、荒川の自然環境と触れ合うための自然体験の機会を創出する。

<主な活動内容>

水辺や草地の生きもの調査を通じた自然体験活動
 参加者ニーズ 子育ての一環

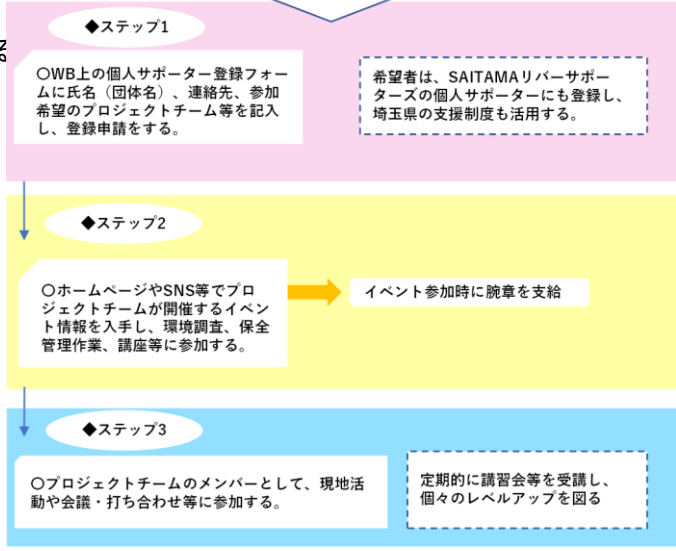


<主な対象>

個人(小学生とその家族)
 ※指導・運営として個人(専門家)、団体(企業、環境団体ほか)
 <事務局>サポーター有志



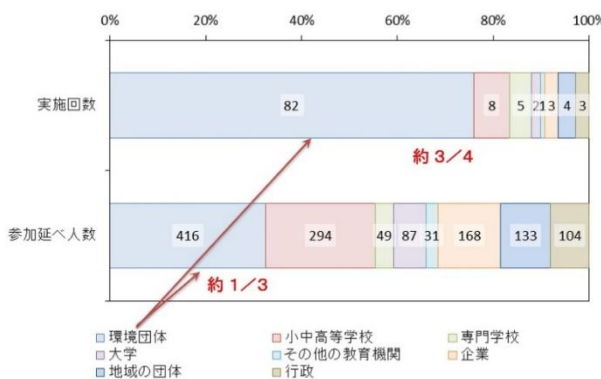
- ◇荒川が好き個人、団体、企業等
- ◇荒川をもっと知りたい個人、団体、企業等
- ◇荒川の環境を守り育てたい個人、団体、企業等



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

- 年間の活動実施回数が多い環境団体であるが、参加延べ人数は少ない。企業や学校等は、参加回数は少ないが、大人数での参加が期待出来る。
- 団体、企業をサポーター制度に組み入れ、活動に参加してもらうことにより、保全活動への参加を促す。
- プロジェクトチームに参加することにより、興味のある活動に参加することが出来る。
- 企業の参加を促し、国が維持管理に掛ける費用を抑えるようにする。

H29年度保全管理活動の実施回数と参加延べ人数の主な割合



企業・団体による活動

『三ツ又沼の自然観察及び外来種除去と竹林整備』
 日 時: 2022年 月 日(金)
 12時00分～15時00分
 実施対象: 参加人数 約90名
 実施内容: 三ツ又沼ビオトープの自然観察
 外来種駆除
 竹林整備
 自然保護に関するワークショップ



外来種駆除



竹林整備



活動後の集合写真

備考